

第3回グレード・アップ「ナリタ」活用戦略会議・議事概要

日時：平成24年5月18日（金）午前10時～

場所：ポートプラザちば2F ロイヤル

1 知事あいさつ

- ・LCCの新規就航やビジネスジェット専用ターミナルのオープンなど、成田空港を取り巻く環境はますます活発化しており、本会議の意義はより深くなっている。
- ・成長を続ける成田空港とともに、官民一体となって千葉県全体が活性化していくための戦略・提言を打ち立てていきたいと考えている。

2 「30万回ビジョン具体化検討調査」の結果について

(1) カジノ・MICE機能を含む複合施設の導入検討調査【資料2】

- ・法制化の動きを踏まえながら、成田空港周辺でのIRについて検討。
- ・カジノ懸念事項は完全に無くすることはできない。懸念事項を最小化する制度設計と事業者の法令遵守・自主的な取組みの徹底が必要。
- ・カジノを含むIRは、MICE誘致に必要な施設投資とプロモーション活動の実現に寄与すると認識。
- ・高さ制限を踏まえ、IR施設イメージを2パターン作成。A案は空港隣接・B案は空港周辺での検討。両案の経済効果・市場性も含め検討。（詳細は資料のとおり）
- ・両案とも一定の市場性は確認されたが、実際に事業者が参入しようとした場合は、事業者によるシミュレーションが行われること、MICE需要の精査等について留意が必要。

(2) 成田空港を活用したビジネス交流機能強化等に関する可能性検討調査【資料3】

- ・成田空港の国際・国内ネットワークの拡充可能性を検討。
- ・国内線の充実やLCCの就航により、空港利用者（旅客及び貨物）の成田空港利用の意向が増加、国内線の新規有望路線が複数あるとの調査結果。
- ・エアラインヒアリングにおいて、申請・検問・税関の簡略化・効率化の要望有
- ・空港を活用したビジネス・交流機能強化策として、4つの方向性を提案
 - ①航空物流機能の強化
 - ②バイオ関連研究・交流機能の整備
 - ③空港マネジメント・マーケティング人材育成拠点・機能の形成
 - ④既存MICE施設との連携強化による国際会議誘致促進

3 「成田空港を活用した経済活性化戦略」の取組み【資料4】

- ・ 前回の会議で報告した4つの戦略について、現在県を中心として進めている取組みと、今後、官民が連携した「支援組織」での取組み・活動のイメージに整理。
- ・ 「支援組織」の組織や活動内容は今後関係者等と協議しながら検討を進めていくが、例えば、国内外への共同プロモーション、LCCの活用方策の検討等を考えている。

4 視察の概要について【資料5】

5 意見交換概要（※発言順）

○千葉県商工会議所連合会 石井会長

- ・ I Rは県で整備するものではなく、海外のオペレーターに投資してもらうことになる。“どこの地域を前提とするのか”は、オペレーターに選択肢があると理解。
- ・ 今回説明があった調査は“ナリタ”ありきという印象を受けるが、オペレーターの意向を調査せずに検討を進めていくと、千葉県にI Rを誘致できなくなるのではないかと、という危惧がある。
- ・ オペレーターにヒアリングをして、地域を決めるというのが筋。（その点について）慎重に調査をしてみてはどうかと思う。

○千葉県経営者協会 平山副会長

- ・ 成田空港はこれまでの歴史から“対策”をする協議会ばかりが目立った。それが、経営者協会の総会で副知事からの話もあったが、“空港活用促進協議会”の立ち上げというのは、ナリタを一つのエンジンとして千葉県を活性化させようということで、力強い話と認識している。
- ・ 5月15日に、成田商工会議所を中心に、I R推進協議会の発起人会を開催した。官では推進しづらい面もあると聞いているが、千葉県の動きを踏まえ、成田市もこの課題に取り組んでももらいたいと考えている。

○芝山町 相川町長

- ・ I Rは外貨獲得の非常に大きな原動力になると思うが、韓国に視察に行った際の印象から、日本人は対象にしない方がよいのではないかと考える。依存症、経済破綻の問題が懸念されるので検討してもらいたい。
- ・ 成田空港の検問は形骸化している面がある。検問を強化すべきエリアと緩和すべきエリアがある。3か所の検問も多いようにも思う。昔と異なり、今は地域と空港は支え合う関係にあり、検問を緩和してイメージアップを図っていくべき。
- ・ 空港が地域の中に存在し、そこでイベントなどの楽しみがあって楽しめるような演出してもらいたい。

○多古町 菅澤町長

- ・現在のような空港警備があると不便で利用しづらいというイメージが先に立ってしまう。早期に改善を図っていただきたい。
- ・圏央道（の大栄～横芝間）の整備の方向性が見えてこず、陸路の関係の弱点となっている。震災の経験から見ても陸路を高速道でつなぐのは大事であり、空港関連ということで一丸となって促進していくべきと考える。
- ・今後は、バランスのとれた共存共栄策という言葉の通り、空港周辺地域のバランスの取れた整備・発展を特に望んでおります。そのためには、成田空港の夜間運用時間制限の緩和を含め、成田空港活性化のための方策を具体的に方向付けしていくべきである。
- ・LCCの参入もあり、バス・鉄道・タクシーといった交通分野での規制緩和を推進し、尚、価格低廉化の検討をしてもらいたい。

○成田市 片山副市長

- ・地元でI Rの推進協議会を立ち上げる動きがあることは承知している。
 - ・行政サイドとしては、I Rは教育・治安の問題などがあり、こうした問題をどうするのか、ということについて議論を深めなくてはならないと考える。
- 今回の調査の中で、採算性はどうなのかという点も気がかり。市町村レベルではできない部分もあり、県の調査を継続してもらいたい。

○N A A 深谷執行役員

- ・地元の理解を得て30万回への容量拡大・整備を進める中、特に国内線の新規就航やL C Cの参入によって路線が大変充実してきている。
- ・警備の関係として、4月には、英国調査会社のランキングで、成田空港がセキュリティで世界第一位との評価を受けた。安全に対して取り組んできた結果だと思っている。一方、警備緩和を要請する声があることは十分認識している。
- ・安全・安心はないがしろにはできないが、空港入場口でのセキュリティ簡素化については、関係機関と十分協議を進めながら努力していきたいと考えている。
- ・空港会社として、利便性・快適性の高い“誰でもナリタ・いつでもナリタ”という大きな目標を持ち、取り組んでいきたいと考えている。

○成田空港事務所 中坪空港長

- ・一部の高ニーズの時間帯に多くのダイヤが貼り付いている中で、更にL C Cの新規就航が予定されている。今後は、N A Aの施設整備や、エアラインとの連携強化、また、空港内の様々な事務所の方々の定時性への協力が必要であり、空港事務所としても改善・努力に努めていく必要があると考えている。

○航空貨物運送協会 飯田委員

- ・現在、成田空港は、国内路線が限定的なため、輸入貨物は成田から羽田に運び、

国内の遠隔地（中国・四国地方等）に輸送しているが、成田空港で際内接続ができる場合、羽田＝成田間の横持ちのコスト、時間の削減というメリットが生まれると考えられる。

・一方で機材の小型化に伴う貨物積載量のキャパシティの減少が懸念。発着枠が広がり、多頻度で小型機での運航となると、貨物需要が増加しても分割（パーシャル）輸送することになり、利便性が下がるので、（最終的には）エアラインの経営判断になるが、需要が見込める路線ではできるだけ大型機材を使用してもらい、貨物の積載スペースをわれわれに提供して頂きたいというのが、航空貨物業界の要望。

○成田国際空港航空会社運営協議会 池辺事務局長

- ・今後、N A Aの積極的なL C C誘致により、色々な国内・外国航空会社などが乗り入れを予定している。A O Cとしては、こういった航空会社の意見要望を取りまとめながら、関係機関と連携して空港機能の充実を図っている。
- ・L C Cや新規フルサービス航空会社の誘致に際し、空港関連施設賃料の支援をお願いしたい。
- ・国内線が充実していく中で、家族・友人の出迎えも発生する。機械警備や制限警備対象エリアの見直しといったセキュリティを簡素化する取り組みが必要という声が、併せてエアラインからも挙がっているのは承知願いたい。

○コンベンションビューロー 石井専務理事

- ・I Rや固定席のある国際会議場ができると、M I C E誘致において多様な提案が出来るようになり、極めて有効な手立てにはなる。
- ・ただ、I Rや会議場があれば成功するというものではなく、観光面・アクセス面など、地域の総体的な面をかけて誘致を行う必要があると痛感している。いずれにしろ、調査の中身を成果として出していきたい。

○インバウンド促進協議会 池田会長

- ・去年は知事が台湾などでトップセールスしていただき感謝している。震災以降の逆風の中で苦労しているが、今年になって回復基調にある。ただ、韓国は厳しい。
- ・教育旅行において、成田空港は利用しているようだが、千葉県ではなく他県へ流出している状況がある。これは海外の学校との交流の受け入れ可能体制が整っていないという問題もあるのだが、是非とも県として積極的に取り組んでもらいたい。
- ・台湾・韓国・香港からの個人旅行が増えており、特に香港はレンタカー利用で国内周遊する人が増えている。他県でも実例があるようだが、レンタカー業者と連携して、ナビ上で県内観光モデルルートを設定できるような、F I T (Free Individual Travel)（個人旅行）向けの取り組みへの支援をお願いしたい。

- ・海外においては、やはり千葉県の認知度は低い。継続したプロモーション、観光展なりに参加して周知を図るのが近道であり、協議会としても取り組んでいきたい。
- ・成田空港の活用促進協議会といった各業界連携しての取組みは力強く感じる。ぜひ内容のある会議となってもらいたい。
- ・成田空港自体が観光スポットになるような取組みが必要。そういった付加価値を空港ないし周辺にできれば、大きな消費も生まれると期待。

○日本旅行業協会 千葉県地区委員会 中村委員長

- ・現在の議論は、総花的になって短期－長期、大きな話－小さな話が混在している感がある。時間軸に切ってゴールを見えるような形にして、今後の会議の議論をして詰めていくなど整理すべき。
- ・LCCの就航はオンビジネスなのかオフビジネスなのか、そしてそれを県経済の活性化にどうつなげていくかという細かい対策が必要と思う。旅という観点では、人が動けばビジネスとなるので、チャンスはあると認識している。
- ・空港を目的地にするのは重要。高速のSAにあるような足湯・風呂など、長旅の疲れを取るサービスは空港でもできると思う。そういった魅力作りも考えるべき。
- ・教育旅行については、安全性を問われる場合が多い。“誘致”と“安全性に対するインフラ・体制整備”を並行して取り組む必要がある。

○県タクシー協会 岩佐会長

- ・震災以降、タクシー業界も大きな影響を受けたが、これまでより復活してきている。
- ・LCCの就航や路線の拡大に伴い、タクシーとしても応えていかなければならないと考えているところ。一方、先ほど意見もあった運賃の弾力化については、規制も多く、成田・東京間はゾーン運賃制もあるが、事業者を含めて勉強していかなくてはならないのかな、と認識。
- ・成田空港に期待していることは、30万回化を達成してもらって、お客様が増えるということが非常な関心事。早期達成をしていただきたい。

○千葉県バス協会 大室会長

- ・本日の成田空港利用意向の調査結果で増加が期待できるとのことで参考になる。
- ・深夜・早朝のLCCの就航を踏まえ、バスアクセスも動きが出ると考えている。
- ・運賃については、燃料価格の高騰・ドライバー人件費・高速道路料金といった固定費やポーターの配置といった委託料がかかっているため羽田に比較して若干高い。ただ、バス協会としても、弾力的な運賃・割引制度といったものを導入して、利用者ニーズに応えられるような体制を整える必要はあると考えている。夏以降、様々なバスが出てくることがあると思います。

○京成電鉄 神子田常務

- ・ I Rについては、千葉がまずトップとして手を上げることが必要であり、また、圏央道整備や鉄道短絡線の都心直結などを訴えるのにも活用促進協議会といったものが必要と考える。
- ・ 京成電鉄は、約 1,000 円で本線経由の鉄道料金を提供しているが、やはり安いので午前中の早い時間は中国人の利用者で一杯。1 日 200 本以上の列車が成田空港に乗り入れており増便は難しいが、ダイヤ編成の機会をとらえて、少しでも成田空港の魅力が高まるよう考えている。

○J R 鈴木企画室長

- ・ 調査報告を聞いて、成田エリアは非常にポテンシャルが高いことを再認識した。
- ・ 震災以降利用客が減っており、9 割くらいは戻ってきているが、若干輸送力を減らした形で運行しているところ。今後、L C Cの就航に加え、様々な施策が行われて空港が元気になれば、いろいろと検討させていただきたいと考えている。

○千葉県経済協議会 山口専務理事

- ・ 経済協議会の中でも意見があり、県も観光誘致に取り組んでいるわけなので、国内外からの成田空港利用者が南房総にアクセスできるよう取り組んでもらいたい。

○千葉県経済同友会 富岡事務局長

- ・ 成田空港の活用促進協議会は大変良いアイデアであり、是非進めていくべき。
- ・ 台湾からの学生が来日するが千葉に留まらないという話があったが、空港だけでなく、全体としての受け入れの整備や周辺整備といったことも今後考えていかなければならないと感じた。

○千葉県商工会連合会 島田専務理事

- ・ 商工会連合会の会員のエリアは成田だけでなく県の外周にも多くあり、成田を核にしても、その次には波及効果が全県に及ぶような長い目での構想を考えていただくとありがたい。

○千葉県中小企業団体中央会 興津事務局次長

- ・ 成田を通過して他県に行ってしまう観光客が多いように感じる。この議論が進み、空港の魅力が高まれば、波及効果として全県に及ぶことを期待している。

(以上)